

# 第 114 回伊達市災害対策本部会議

平成 24 年 1 月 24 日 (火)

16 時 00 分～

保原庁舎 2 階応接室

## 1 放射能関係

- ・汚染砕石問題について
- ・特定避難勧奨地点（追加分）の避難状況について
- ・特別措置法に基づく除染実施計画の協議について
- ・12 月までのホールボディカウンタ検査結果について（福島県）
- ・放射能と向き合うための講演会実施について
- ・東電福島第一原発中長期ロードマップ概要
- ・福島環境再生事務所・除染プラザの開設

## 2 その他（別紙参照）

- ・環境放射線測定結果
- ・第 245・246 回福島県災害対策本部会議の概要
- ・災害対策号（第 45 号）について

次回 1/31 (火) 16 時 ～

## 1 実施日時等

平成 24 年 1 月 24 日（火） 16：00～16：50

## 2 内容

### 1 放射能関係

- ・汚染砕石問題について

産業部長が口頭により説明した。

前回の対策本部会議で、伊達市の砕石（採石）場は 3 箇所と報告したが、今回、県で調査した砕石場というのは、特定避難勧奨地点の付近にある土採り場であり、月舘町で 4 箇所、霊山町で 5 箇所の合計 9 箇所に県で調査に入った。本日の新聞報道によれば、特に問題になる線量ではなかったという結果であった。前回報告した梁川町にある砕石場は、今回の調査対象外であった。

（建設部長）

川砂利については、宮城県から購入している状況である。

山砂については、公共事業で使用する際には、線量を測定してから使用している。

- ・特定避難勧奨地点（追加分）の避難状況について

環境防災課長が資料により説明した。

前回の対策本部会議では、調整中が 3 件と報告したが、その後、決定・内定している。

石田地区については、福島市へ妊婦 1 名が避難決定となった。保原町富沢では、2 世帯調整中であったが、1 世帯は保原町の市営住宅となり、本日、鍵の引渡し式を行い、1 世帯は郡山市の民間借上住宅が内定となった。

避難を希望する世帯が 12 世帯あったが、すべて避難先が決定・内定した。

これまでの 104 地点 113 世帯のうち 82 世帯 272 名が避難しており、今回の 12 世帯 47 名を合計すると避難した世帯は 94 世帯 319 名となる。

（市長）

指定世帯 128 世帯のうち避難した世帯が 94 世帯となった。最初の石田地区は、指定が 44 世帯、避難した世帯は 14 世帯で約 4 分の 1 であった。現在は、80%近くになっており、避難せざるを得ない状況となっているのか。

特定避難勧奨地点に指定されたことにより、補償されることになるが、避難をする・しないにかかわらず補償が受けられることがいいのかどうかというのもある。

- ・特別措置法に基づく除染実施計画の協議について

市民生活部長が資料により説明した。

（市長）

伊達市はどのような状況か。

(市民生活部長)

スケジュールや具体的な場所など、今週から来週にかけて確定し、なるべく早く環境省と事前協議を行い、できれば3月くらいから着工したい。

先日、環境省の除染計画推進員（A班3名）が挨拶に来られた。

- ・12月までのホールボディカウンタ検査結果について（福島県）

健康福祉部次長が資料により説明した。

12/31までに県で実施した検査結果で、マスコミへの情報提供の資料である。

伊達市では、12/31までに388名が検査を受けており、1mSv未満が386名、1mSvが1名、2mSvが1名であった。

福島医大の宍戸先生のコメントでは、健康に影響が及ぶ数値ではないということであった。

- ・放射能と向き合うための講演会実施について

健康福祉部次長が資料により説明した。

1/20にガラスバッジの測定結果を市民9,443名に送付した。

講演会では、その結果に基づき外部被ばくの現状を説明しながら、放射能に対する不安や疑問を軽減し、今後の健康管理に役立てる。

5地区で開催することとし、2/2の霊山地区には市政アドバイザーである宍戸先生にも出席していただく。

(市長)

災害対策号にもガラスバッジについて伊達市の実情を詳しく書いたが、測定結果が高い傾向にある霊山地区に宍戸先生が行っていただけるとはいいことである。

外部被ばくが高いということは、内部被ばくも考える必要があり、高い結果が出た人には、ホールボディカウンタ（以下、WBC）を受けてもらうことを考えている。

今、約10,500人がガラスバッジを身につけているが、放射線量測定マップの赤い部分については配布するなど、もう少し増やしてもいいのではないかと。

WBCは3月までに8,000人が検査を受けるので、WBCとの兼ね合いをどうしていくかということである。WBCも年一回は全員が受けるようにした方がいいのではないかと。今後の健康管理として、24年分として検討してもらいたい。

- ・東電福島第一原発中長期ロードマップ概要

市民生活部長が資料により説明した。

- ・福島環境再生事務所・除染プラザの開設

市民生活部長が資料により説明した。

1/21（土）に福島駅東口にある福島キャピタルフロントビル7階にある福島環境再生事務所

開催された。

開所記念式のあと、開所シンポジウムが開催されアドバイザーの田中先生もお出でになった。開所記念式には市長が出席され、パネルディスカッションには市民生活部長と市民生活部次長が出席した。

「除染情報プラザ」が1階にあり、想定される具体的なニーズ（放射線全般に関する講習会での講師、放射線量モニタリングについての技術的指導、市町村委託の業者や除染ボランティア参加者に対する作業方法や放射線被ばくに係る留意事項の説明）に対して、専門家派遣等が行われる。

各市町村から発信される情報を国にあげる役割もあるのではないかという意見も出された。

## 2 その他

- ・環境放射線測定結果

市民生活部長が資料により説明した。

- ・第245回、246回福島県災害対策本部会議の概要

市民生活部長が資料により説明した。

- ・災害対策号（第45号）について

総務課広報広聴係長が資料により説明した。

(市長)

「ガラスバッジの結果について」だが、今回の3ヶ月の測定結果を4倍すると1年間の累積線量が推定できるが、単純に4倍ではなく線量は時間とともに減少するので、年間おおむね1～3 mSv 以下の結果となる。いくらならいいのかとなると、目標は年間1 mSv 以下であるが、現実的には5 mSv 以下であれば安全ではないかということだが絶対ではない。

考え方として、WBC や食品検査器、ガラスバッジも最終的には自分で納得するしかない。そのために、自分で測れるような体制、高い数値については市で調査や別の検査をするなどの体制を検討していかなければならない。

中段に書いてある「線量の高い地区」とは、霊山・月舘であり、年間20mSv を超える2人は霊山である。

また、自家用農産物のモニタリング調査結果については、採ってあるデータを活かす利用方法はないか。

(産業部長)

米の検査結果については、現在マッピングを行っている。

(市長)

ガラスバッジ、WBC の測定結果もそうだが、データをよく見て分析し、これからの対策に活かすようにしなければならない。

筑波大学で、分析してくれるということなので、大人と子どもの違いや男女での違い、場所の違いなどさまざまなことを検討してもらいたい。さまざまなデータを個別に見るのではなく、連携させるようにして、対策につなげられるような調査をしてもらいたい。

(月館総合支所長)

「市内各地域の放射線測定結果」で、1/23の結果は軒並み下がっているが、雪の影響か。

(市民生活部長)

かなり湿った雪であり遮蔽効果があると思われる。

(産業部長)

3ページの【簡易分析器について】で、「地区によって違います」では誤解を招くので、「機種によって検出限界値は違います」と訂正してほしい。

(市民生活部長)

災害対策号は見ている方が多いので、空いているスペースに「放射線と向き合うために」の講演会日程表を掲載できないか。

(教育部長)

学校等の測定結果を掲載しなくなったことについて、問い合わせはきているか。

(市民生活部長)

災害対策本部には苦情等問い合わせはきていない。

(市民生活部長)

みなさんに御協力いただいた「伊達市一斉放射線量測定マップ」の印刷が終わったので、今週中には配布の予定である。

(市長)

前回に比べて、色(測定値)はどうなっているか。

(市民生活部長)

マップ左上のコメントに記載してあるが、533地点(全体の72.2%)は線量が低くなっている。205地点(27.8%)は線量が変わらない、または0.01~0.78 $\mu$ Sv/hの線量増加となった。雪が融けたら、精密なサーベイメーターで測定したい。

(市長)

線量計を各町内会に配布したのだから、町場については市民が測定した1軒ごとの測定結果をデータとして集めることはできないのか。

(市民生活部長)

各総合支所で町内会を指導してもらい、それぞれの地区ごとのマップを作るようになると思う。

(市長)

測定方法やマップを作りやすいようなルールを決めて指導や説明を行い、実施してもらうようにしなければ進まない。

(市民生活部長)

放射能対策課と各総合支所で検討したい。

《次回本部会議》

平成24年1月31日(火) 16:00~

本庁舎2階 応接室において

(文責: 齋藤 孝幸)